

薬用にも使える高品質ハトムギ品種の開発と高度利用

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 農研機構

次世代作物開発研究センター 大潟 直樹

2 研究期間：2018～2022年度（5年間）

3 研究目的

食用にも薬用にも利用できるハトムギ品種を開発し、薬用品質を維持する栽培システムを構築する。食品向けとして、2割増収する栽培技術の開発と食品機能性の科学的エビデンスを公表する。

4 研究内容及び実施体制

① 高品質ハトムギの品種開発と利用

最大産地富山県における特性評価から高品質ハトムギを品種登録し、薬用に求められるモチ性を維持する栽培システムを構築する。

（農研機構、富山県薬事総合研究開発センター、太陽食品（株））

② 高品質ハトムギの増収栽培技術の開発と実証

栽培現場における増収要因や問題点を解析し、食用ハトムギを2割増収する栽培技術を開発し、富山県の水田転作の現場で実証する。

（愛媛大学大学院農学研究科、いなば農業協同組合、氷見市農業協同組合）

③ 高品質ハトムギの食品機能性の解明

食用ハトムギの食品機能性の情報を整理し、ヒト臨床試験から国産ハトムギの機能性に関する科学的エビデンスを明らかにする。

（順天大学大学院スポーツ健康科学研究科）

5 達成目標

薬用にも利用できる食用の高品質ハトムギ品種を開発する。ハトムギの収量を2割向上する栽培技術を開発し産地で実証する。食品としての健康機能性の科学的エビデンスを明らかにする。

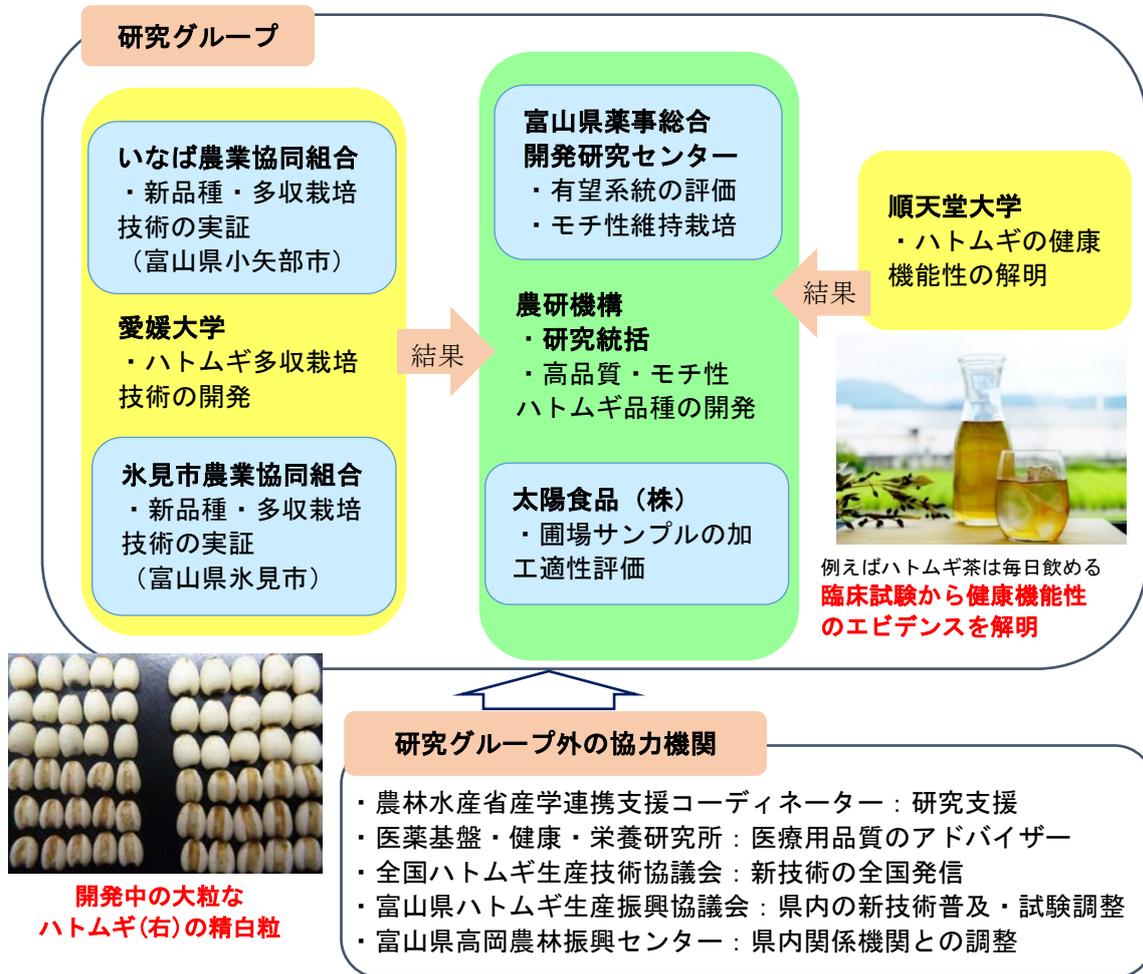
6 期待される効果・貢献

国産ハトムギの需要が向上し、生産性の高い水田転作の実現と薬用作物増産に貢献する。高齢化社会におけるヒトの健康機能の維持に貢献する。

○国産ハトムギの消費拡大に向け、食用として大粒でおいしく、薬用として漢方原料にも利用できる高品質な新品種を開発します。また、食用ではハトムギ食品の新たな健康機能性を解明します。

○ハトムギは湿害に最も強い水田転作物として注目されています。ハトムギ増産のため多収化栽培技術を開発し、産地の維持・発展、新産地の形成に貢献します。

○国内最大産地の富山県においてモデル実証した成果を全国に発信します。国民の健康維持に繋がるハトムギ食品の価値を創造します。



研究目標

1. 大粒で完全モチ性の高品質ハトムギを品種登録
2. 2割増収する栽培技術を開発し富山県の産地で実証
3. ハトムギの健康機能性のエビデンスを1件以上解明し公表

ハトムギの高度利用マニュアル(品種・栽培・加工・利用)を発信